# Vas-Cog Journal

## 日本脳血管・認知症学会学会誌

No.3 Oct 27, 2016

Official Journal of Vas-Cog Japan Society

ISSN : 24239372

# 日本脳血管・認知症学会（Vas-Cog Japan）からのご挨拶

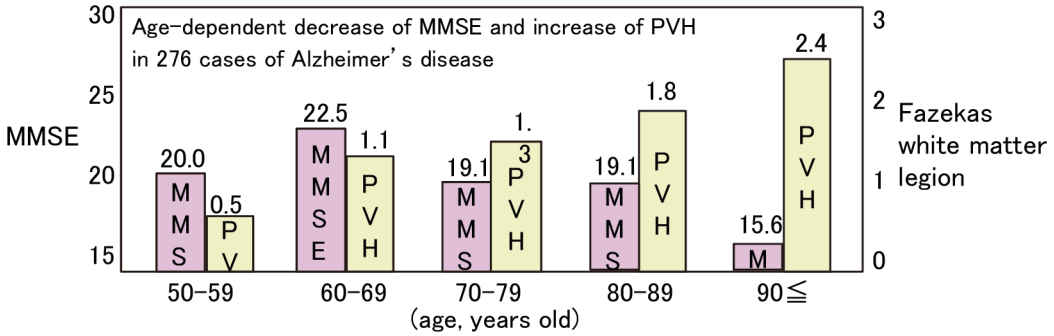
日本脳血管・認知症学会理事長　**阿　部　康　二**

研究会の時代から数えて７年目となる「日本脳血管・認知症学会 (Vas-Cog Japan)」は、お陰様で少しずつ発展して来ています。日本学術会議に登録される学会組織としての要件は会員数も会費運営も機関誌発行も既にクリアして、現在申請へ向けて浦上克哉学会化促進委員長にご尽力を頂いています。また昨年から発行を開始した日英２か国語での newsletter は各国からも大変好評を頂き、東海林幹夫学会誌編集委員長のご尽力によって、Vas-Cog Journal として Vas-Cog Asia との joint 誌に発展して来ています。また羽生春夫会員増加・広報委員長のご尽力により、会員数も順調に増加して来ており、2016 年８月現在で理事 26 名、評議員 54 名を含む 143 名の医師会員となりました。今後とも会員増加が見込まれています。また森下竜一財務委員長のご尽力のお陰様で、財務体質も極めて順調に推移しています。これら全てはひとえに本学会を支えて頂いている会員の先生方、評議員の先生方、理事の先生方のご尽力に依るものと心より感謝申し上げます。

さて今年で第７回となりました日本脳血管・認知症学会（Vas-Cog Japan）総会は、金沢市で堀内正嗣先生ならびに山田正仁先生を両会長として 2016 年８月６日に盛大裡に終了しました。両会長先生の企画による大変魅力的なプログラムのお陰様で、多くの参加者を得たことは非常に有難く存じます。第８回は 2017 年８月５日に虎ノ門ヒルズで内山真一郎理事と小室一成理事を両会長として開催される予定ですので、多くの皆様方のご出席を期待しております。また本学会と連携している Vas-Cog Asia 学会の方も年々活性化してきており、2016 年は７月 14 日に Brisbane で盛会裡に終了し、日本からは Vas-Cog Asia 理事でもいらっしゃる内山真一郎先生はじめ、池田佳生先生、山下徹先生にご講演・ご司会を頂き盛り上げて頂きました。2017 年は 10 月 26 日に南京市で第６回大会が開催される予定となっています。

本学会は急増しているアルツハイマー病（AD）や血管性認知症は勿論のこと、レビー小体型認知症やパーキンソン病関連認知症、前頭側頭型認知症などの主たる認知症に関して「超高齢化社会にあって注目されている血管と認知症の関係」について、従来分類のような単なる血管性認知症という観点を超えた新しい幅広い視点から臨床的・基礎的研究を進めることを目的として設立されています。最新の研究成果でも、AD における年齢依存的な知的機能（MMSE) 低下と白質障害（PVH）の関連性がより明確化して来ています（Tokuchi R et al., JNS 2016; 365: 3-8)。本学会ではこのような新しい学術的社会的要請に応えて、今後とも血管の機能的・器質的障害と認知症発症との深い関連について研究解明し、新しい診断法や新しい治療法の開発に発展させていくことで、日本を始めとした人類全体の健やかな高齢化社会の維持発展に資することを目指して行きます。皆様方の積極的なご参加をお待ちしています。

2016 年８月 15 日



# Vas-Cog Japan 2016 開催の報告

愛媛大学大学院医学系研究科 分子心血管生物・薬理学　**堀　内　正　嗣**

第７回日本脳血管・認知症学会学術大会（Vas-Cog Japan 2016）は山田正仁先生（金沢大学大学院医歯薬保健学総合研究科　脳老化･神経病態学）と小生が会長を務め、平成 28 年８月６日に金沢都ホテルにて開催いたしました。今回は昨春北陸新幹線が開業して全国的に注目を集めている金沢市での開催となり、東京開催が多かった Vas-Cog Japan においても珍しい地方開催ということでしたが、大変暑い中にも関わらず、160 名の方に参加いただきました。

学会のメインテーマは「心血管・代謝と認知症および脳アミロイドアンギオパチー（CAA）」とし、プログラムとしては特別講演２演題、教育講演２演題、シンポジウム２題（４題、３題）を企画いたしました。一般演題は全てポスターとし、37 演題の多数の応募があり、そのうちの 12 演題を若手奨励賞（YIA）候補演題といたしました。

特別講演１は新潟大学循環器内科学の南野徹教授より「老化シグナルによって制御される心血管代謝ネットワーク」というタイトルで、各組織の細胞老化が動脈硬化をはじめ、糖尿病等の生活習慣病発症にも関与しているメカニズムについてご講演をいただきました。

特別講演２は英国サウサンプトン大学神経病理学の James AR Nicoll 教授より「The role of vascular system in dementia」というタイトルで、病理学の立場から血管病変と認知症についての講演をいただきました。特にアミロイドβワクチン治療によって誘導される Amyloid Related Imaging Abnormalities - ARIA に関しては、サウサンプトン大学での検討は世界中から注目されており、フロアからも関心が高く、講演後に多くの質問がありました。

教育講演では血管性認知症の歴史から現在の考え方、将来のキーポイントとなる点に関する講演と、レビー小体型認知症の画像診断に関するご講演をいただきました。

シンポジウム１は「生活習慣病と脳梗塞・認知症」というテーマで糖尿病や高血圧、脂質異常症がもたらす認知症への影響と脳虚血時に働く NADPH オキシダーゼの作用についての研究成果を報告いただきました。

シンポジウム２は「脳アンギオパチーの診断と治療の最前線」というテーマで CAA に関連した画像診断の最前線と CAA 関連炎症についての最新の知見について報告いただきました。

一般演題は５つのパートに分かれて各々２人のコメンテーターの先生にお願いしてディスカッションが行われました。どの発表もハイレベルな内容で、熱い討論が行われて会場は大変賑わいました。厳選なる審査の結果、YIA には３演題を選ばせていただきました。

最後に会員懇親会を開催させていただき、山王病院脳血管センターの内山真一郎先生から来年の学術大会のご案内を頂きました。ちょうど北陸中日花火大会が近くの犀川河川敷で行われており、懇親会場より新しい金沢駅を背景に美しい花火を見ることができたサプライズもありました。

最後に、皆様のご支援により学術大会が成功裏に行うことができましたことを感謝申し上げます。

文責：茂木正樹

# Vas-Cog Japan 2016 を終えて

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学　**山　田　正　仁**

平成 28 年（2016 年）8 月 6 日（土）に金沢都ホテルにおいて、愛媛大学分子心血管生物・薬理学の堀内正嗣と金沢大学脳老化・神経病態学（神経内科学）の山田正仁が共同で大会長を務めさせていただき、第 7 回日本脳血管・認知症学会学術大会（Vas-Cog Japan 2016）を開催いたしました。2010 年の研究会発足以来、初めて地方都市での開催となりましたが、一般参加および招待者を併せて 160 名の参加を得て、盛会裏に学術大会を終えることができました。

今回の学術大会では、「心血管・代謝と認知症および脳アミロイドアンギオパチー」をメインテーマとし、血管性認知障害の病態解明や治療法開発に関連した教育講演、シンポジウムおよび特別講演を開催いたしました。

特別講演 1 では新潟大学の南野徹教授に「老化シグナルによって制御される心血管代謝ネットワーク」の題名でご講演いただき、特別講演 2 として英国サウサンプトン大学の James Nicoll 教授に「The role of the vascular system in dementia」の題名でご講演いただきました。

シンポジウムでは心臓を含めた血管病変と代謝性疾患の認知症発症への関わりおよび脳アミロイドアンギオパチーに関する最新の知見が報告され、参加者との活発な討論が行われました。

一般演題と若手研究奨励賞（YIA）には 37 演題を応募いただきました（うち YIA は 12 演題）。Vas-Cog Japan 2016 での初めての取り組みといたしまして、一般演題と YIA に関しては口演での発表は全て取りやめ、ポスターによる発表のみとしました。ポスター発表では、演者による個別のプレゼンテーションは行わないこととしましたが、各カテゴリーで 2 名ずつのコメンテーターをお願いし、ポスタービューイングとポスターディスカッションの時間帯で、演者および参加者とじっくり議論していただくこととしました。議論が盛り上がるか心配しましたが、ポスターの前では大変活発な議論が行われ、演者や参加者より好意的なご意見をいただくことができました。また、理事の投票を元に、懇親会において 4 演題を YIA として表彰させていただきました。

本学術大会の開催にあたっては愛媛大学および金沢大学の教室員のご協力をいただきました。また、皆様のご支援で実りのある学会になりましたことに深謝いたします。

# Vas-Cog Asia 5 印象記

Vas-Cog Asia 学会理事長　**阿　部　康　二**

第 5 回の Vas-Cog Asia は今回もアジア太平洋脳卒中学会 (APSC)2016 と合同で 2016 年 7 月 14 日午後にオーストラリア国のブリスベーン市で開催されました。今回は日本をはじめ台湾、韓国、中国、香港、マレーシア、インドネシア、オーストラリアなどから 35 名の出席がありました。前回同様に多くのテーマに渡って発表があり、認知症と血管障害との関連について基礎的研究から臨床的解析まで幅広く新しい視点からの発表が多く活発な討議が行われました。日本からは Vas-Cog Asia 理事でもいらっしゃる内山真一郎先生はじめ、池田佳生先生、山下徹先生にご講演・ご司会を盛り上げて頂きました。また Young Flash Talk のセッションではアジア諸国の若手研究者達から意欲的な発表があり注目を集めました。

認知症と脳血管障害はどちらも介護医療の対象となり健康寿命を短縮する 2 大疾患であり、アルツハイマー病（AD) や血管性認知症（VD) ならびに AD における血管病変の重要性は特に日本を含めたアジア諸国全体で高まっていると言えます。従ってこれらの疾患や病態を研究対象とする本学会の意義は今後益々大きくなるものと思われます。

昨年の本稿で内山真一郎理事がご指摘されている様に、World Stroke Organization（WSO） は、World Stroke Day のテーマとして Preventable dementia を宣言しています。この宣言では「Preventable dementia を予防し、診断し、治療しよう」と呼びかけた上で、「無症候性脳血管障害は脳卒中の 5 倍多く発生し、思考、情緒、性格に影響を与える。あらゆる主要な認知症は血管性要素を含んでおり、特に AD では80%にも及ぶ。従って全ての認知症で血管性因子を同定し、治療する必要がある。」と強調しています。APSO は WSO の地域機関として位置づけられるようになっており、APSC と合同開催している Vas-Cog Asia でも WSO と連携して Preventable dementia の啓発活動を積極的に展開する必要があるという内山理事のご提案には全く同感です。

来年の Vas-Cog Asia 6 は中国の南京市で 10 月 26 日（木）午後に次回も APSC 2017 と共同開催されることになっています。南京は日本人にとっては訪問しづらい側面もありますが、多くの皆様のご参加を期待しています。

# Vas-Cog Japan 2017 のご紹介

国際医療福祉大学／
山王病院・山王メディカルセンター
脳血管センター
**内 山 真一郎**

東京大学大学院医学系研究科
循環器内科学
**小 室 一 成**

この度、第８回日本脳血管・認知症学会総会（Vas-Cog Japan 2017）を開催させていただくことになりました。これまで５回の研究会を経て、2014 年 10 月から新しく発足した「日本脳血管・認知症学会 (Vas-Cog Japan)」は、急増している認知症を反映して参加者が年々増加しております。本学会総会は、会期を 2017 年８月５日（土）、会場を虎ノ門ヒルズフォーラムとし、現在鋭意開催準備を進めております。

本学会のテーマは「臓器連関から考える認知機能障害」です。最近の研究の進歩により、血管性認知症のみならず､変性疾患として考えられている、あらゆるタイプの認知症にも血管性因子が深く関与しており、認知症の中で最大の疾患であるアルツハイマー病では血管性因子の関与が 80％にも及ぶといわれています。脳血管障害の中で脳卒中は氷山の一角であり、その水面下には５倍もの無症候性脳血管障害が潜んでおり、記憶、行動、情緒、性格に影響を与えています。さらに最近では心不全や心房細動などの心疾患が認知機能障害の危険因子になることが注目されています。

アルツハイマー病と血管性因子の関与に関しては、脳微小循環レベルの障害に血管性因子が作用して神経血管ユニットの破綻をきたすことが発症メカニズムに関与する可能性が議論されています。認知機能低下に関連する画像所見としては、従来から検討されてきた無症候性脳梗塞や大脳白質病変の他に、微小脳出血、微小皮質梗塞、血管周囲腔拡大、脳表ヘモジデリン沈着症、皮質の菲薄化が認知機能に影響を及ぼす画像指標として注目されています。

このような背景を踏まえ、脳や心臓を始めとする全身臓器の障害や、最大の臓器である血管の障害が認知機能障害とどのようにかかわっているかを学際的に討論し、認知症の予防につながるような総会にしたいと考えています。今回のテーマに沿って特別講演やシンポジウムを企画するとともに、若手研究者による一般演題の発表や若手医師や一般医家を対象とした教育講演を充実させ、幅広い領域からの参加を呼びかけ、参加者の方々が満足される学会の運営に全力を尽くす所存です。

虎の門ヒルズは、都心の再開発拠点として注目されており、銀座までのルートを日本のシャンゼリゼにしようと計画されています。周辺の界隈にはレストランやカフェが次々とオープンしており、2020 年に開催される東京オリンピックに向けて目覚ましく変貌しつつあります｡銀座だけでなく、新宿や渋谷などの繁華街へも便利な地域に立地しており、真夏のイベントも多い時期です。

多数の演題のご応募と多数の皆様の御来場をお待ちしています。

# VAS-COG Japan 2017

VAS-COG J

第8回日本脳血管・認知症学会総会
8th Annual Meeting of the Japanese Society for Vascular Cognitive Impairment
http://www.conet-cap.jp/vas-cogj/

## 臓器連関から考える認知機能障害

**日時** 2017年8月5日(土)

**場所** 虎ノ門ヒルズフォーラム
〒105-6305 東京都港区虎ノ門1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー4階

**演題登録期間** 2017 3月15日(水) → 2017 4月17日(月)

会　長：内山　真一郎
国際医療福祉大学臨床医学研究センター/
山王病院・山王メディカルセンター 脳血管センター

小室　一成
東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学

副会長：北川　一夫
東京女子医科大学医学部 神経内科

総会事務局
〒162-8666
東京都新宿区河田町8-1
東京女子医科大学医学部 神経内科
事務局長：吉澤　浩志（講師）

運営事務局
〒532-0004
大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-29
テラサキ第2ビル　株式会社コネット
TEL:06-6398-5745　FAX:06-6398-5746
E-mail:vas-cogj@conet-cap.jp

# Vas-Cog Japan 理事会報告

大阪大学大学院医学系研究科　臨床遺伝子治療学　**森　下　竜　一**

日本脳血管・認知症学会第８回理事会・評議員会合同会議が、2016 年８月６日（土）金沢都ホテル（鳳凰東）に於いて理事 19 名評議員 25 名が参加し開催されました。
理事長、各委員より以下の内容が報告され、承認されました。

**【会員数】**

正会員：143 名（2016 年７月 31 日現在）

**【各委員長からの報告】**

・学会化促進委員長（浦上克哉先生）
学術団体登録申請については会員の定義が厳しく、科研費の研究者番号を持ち、会費の滞納がない会員が 100 名以上必要である。会費納入への協力をお願いしたい。

・会員増加・広報委員長（羽生春夫先生）
賛助会員を増やすため、特典として HP 上にバナー広告を６枠設置した。現在空きが４枠ある為、企業へのお声掛けをお願いしたい。

・学会誌編集委員長（東海林幹夫先生）
Journal 第３号の執筆担当者が決まり、11 月に発送予定である。また、Vas-Cog Asia の理事会で、Asia にはジャーナルがなく Japan のジャーナルに相乗りすることが決定した為、将来的に掲載原稿をもらえるよう働きかけていくことが理事長より報告された。

・財務委員長（森下竜一）
平成 28 年３月末時点での預金残高は 21 万円強。27 年度収入約 67 万円、支出 140 万円。当期だけでは支出が多いが、Vas-CogJ2015 から 50 万円弱、Vas-Cog World から 350 万円強の寄附があり、今年度の運営は滞りなく行えると認識している。 会費未納の方は是非納入をお願いしたい。
監査は松原先生と森下の２名で行い、問題ないことを確認したが、社団法人化に向け、本来理事が監事を兼任できないため、来年度は大阪大学の島村先生他１名にお願いする。

**【今後の開催予定】**

１．第８回学会総会（2017 年８月５日（土）
虎ノ門ヒルズフォーラム / 東京）
会　長：内山真一郎先生、小室一成先生
副会長：北川一夫先生

２．Vas-Cog Asia2017（October 26 (Thu) 2017, Nanjing）

３．第９回学会総会（2018 年８月４日（土）
別府ビーコンプラザ / 大分）
会　長：浦上克哉先生、松原悦朗先生

４．第 10 回学会総会（2019 年８月３日（土）
虎ノ門ヒルズフォーラム / 東京）
会　長：秋下雅弘先生、池田佳生先生

５．以降の予定は最終ページを参照

**【新評議員の報告】**

役員名簿の※印

# 役　員　名　簿

## ●顧　問

森　　啓
（大阪市立大学大学院医学研究科脳血管内治療
頭蓋底外科病態学寄附講座　特任教授）

## ●理事長

阿部　康二
（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
脳神経内科学　教授）

## ●事務局長

森下　竜一
（大阪大学大学院医学系研究科
臨床遺伝子治療学　教授）

## ●理　事

秋下　雅弘
（東京大学大学院医学系研究科加齢医学　教授）

内山　真一郎
（国際医療福祉大学臨床医学研究センター　教授
山王病院山王メディカルセンター
脳血管センター　センター長）

川畑　信也
（社会医療法人 財団新和会
八千代病院 認知症疾患医療センター　センター長）

神﨑　恒一
（杏林大学医学部高齢医学　教授）

佐田　政隆
（徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学分野　教授）

鈴木　正彦
（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
神経内科　准教授・診療部長）

寺山　靖夫
（岩手医科大学内科学講座 神経内科･老年科分野　教授）

長田　乾
（横浜総合病院　臨床研究センター　センター長）

福井　俊哉
（かわさき記念病院　病院長）

松原　悦朗
（大分大学医学部神経内科学講座　教授）

光山　勝慶
（熊本大学大学院医学系生体機能薬理学分野　教授）

山口　修平
（島根大学医学部内科学講座内科学第三　教授）

池田　佳生
（群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学　教授）

浦上　克哉
（鳥取大学医学部保健学科生体制御学　教授）

北川　一夫
（東京女子医科大学神経内科　教授・講座主任）

小室　一成
（東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学　教授）

東海林　幹夫
（弘前大学大学院医学研究科 脳神経内科学講座　教授）

瀧澤　俊也
（東海大学医学部内科学系神経内科　教授）

冨本　秀和
（三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学　教授）

羽生　春夫
（東京医科大学病院高齢診療科　教授）

堀内　正嗣
（愛媛大学大学院医学系研究科
分子心血管生物・薬理学分野　教授）

水野　敏樹
（京都府立医科大学医学研究科　神経内科学　教授）

三村　將
（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室　教授）

山田　正仁
（金沢大学大学院　医薬保健学総合研究科
脳老化・神経病態学（神経内科学）　教授）

## ●監　事

島村　宗尚
（大阪大学大学院医学系研究科
健康発達医学寄附講座　准教授）

松村　美由起
（東京女子医科大学附属成人医学センター
神経内科　講師）

●評議員

相澤　仁志
（東京医科大学神経内科学分野　主任教授）
安部　哲史
（島根大学医学部附属病院神経内科　助教）
石井　啓義
（大分大学医学部精神神経医学講座　講師）
猪原　匡史
（国立循環器病研究センター脳神経内科　医長）
内山　由美子
（東京女子医科大学神経内科　助教）
太田　康之
（岡山大学神経内科　助教（院内講師））
小黒　浩明
（島根大学付属病院神経内科　講師　副診療科長）
加藤　陽久
（東京医科大学神経内科学分野　講師）
亀山　祐美
（東京大学医学部附属病院老年病科　助教）
栗波　仁美
（大阪大学大学院連合小児発達学研究科
健康発達医学寄附講座　特任助教）
小島　太郎
（東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座　助教）
坂井　健二
（金沢大学附属病院神経内科　助教）
里　直行
（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学
老年・腎臓内科学　寄附講座准教授）
高尾　芳樹
（社会医療法人全仁会　倉敷平成病院神経内科
副院長・神経内科部長）
高村　歩美
（鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座　講師）
竹屋　泰
（大阪大学大学院医学系研究科老年・腎臓内科学　助教）
赫　寛雄
（東京医科大学神経内科学分野　講師）

徳田　隆彦
（京都府立医科大学分子脳病態解析学
（神経内科併任）教授（神経内科　併任准教授））
永山　正雄
（国際医療福祉大学熱海病院　神経内科教授
脳卒中・神経センター長）
東　靖人
（医療法人公仁会　姫路中央病院神経内科　医長）

菱川　望
（岡山大学神経内科　助教）
牧岡　幸樹
（群馬大学医学部附属病院神経内科　助教）
南野　徹 ※
（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科　教授）

村松　和浩
（東京歯科大学市川総合病院神経内科　教授）
茂木　正樹
（愛媛大学大学院医学系研究科分子心血管生物・
薬理学　准教授）
山﨑　貴史
（秋田県立脳血管研究センター神経内科研究部　研究員）
吉澤　浩志 ※
（東京女子医科大学神経内科　講師）

涌谷　陽介
（倉敷平成病院神経内科・認知症疾患医療センター
部長・センター長）

麻生　泰弘
（大分大学医学部附属病院神経内科学講座　助教）
池田　将樹
（群馬大学医学部付属病院神経内科　講師）
市川　博雄
（昭和大学藤が丘病院脳神経内科　准教授）
岩波　純
（愛媛大学大学院医学系研究科分子心血管生物・薬理学　助教）
卜部　貴夫
（順天堂大学医学部付属浦安病院　脳神経内科　教授）
小川　純人
（東京大学大学院医学系研究科加齢医学　准教授）
小野　賢二郎
（昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門　教授）
神谷　達司
（神谷医院　院長）
木村　成志
（大分大学医学部神経内科学講座　講師）
河月　稔
（鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座　助教）

近藤　正樹
（京都府立医科大学神経内科　学内講師）
櫻井　博文
（東京医科大学高齢診療科　准教授）
佐藤　正之
（三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座
准教授）
高野　大樹
（横浜総合病院脳神経内科　医長）

武田　朱公 ※
（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学　准教授）
出口　健太郎
（岡山大学神経内科　講師）
渡嘉敷　崇
（琉球大学大学院医学研究科循環器・腎臓・
神経内科学（第３内科）　助教）
長嶋　和明
（群馬大学神経内科　助教）

長谷川　雄
（熊本大学大学院生命科学研究部生体機能薬理学分野　助教）

東　幸仁 ※
（広島大学原爆放射線医科学研究所ゲノム障害医学研究
センターゲノム障害病理研究分野再生医科学部門　教授）
藤田　行雄
（群馬大学医学部脳神経内科　講師）
真邊　泰宏
（国立病院機構岡山医療センター神経内科　医長）
関　莉娟 ※
（愛媛大学大学院医学系研究科分子心血管生物・
薬理学　助教）
目黒　謙一
（東北大学高齢者高次脳医学　教授）
望月　秀樹
（大阪大学大学院医学系研究科神経内科学　教授）

山下　徹
（岡山大学病院神経内科　講師）
若山　幸示
（東京大学大学院医学系研究科先端臨床医学開発講座
特任助教）

# 日本脳血管・認知症学会（Vas-Cog Japan）会則

**【第一章　名　　称】**

第１条　本会は日本脳血管・認知症学会と称し、VAS-COG J と略称する。

第２条　本会は事務所を〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-8-29 テラサキ第２ビル８階 株式会社コネット内に置く。

**【第二章　目的および事業】**

第３条　本会は日本における血管性病変と認知症との関連について幅広い視野から臨床的基礎的研究を行い、併せて国際的な当該分野研究者との情報交流を通じて、認知症の原因や病態における血管性病変の関与を明らかにすることで創薬の可能性も探り、認知症研究の新しい分野の発展に資するために設立された。

第４条　本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

１．会誌の刊行
２．学会総会の開催（学会総会は参加者の参加費で運営されるが、共催も可能である。）
３．研究の奨励および表彰
４．その他の事業

**【第三章　会　　員】**

第５条　本会の会員はつぎのとおりとする。

１．正会員
２．学生会員
３．賛助会員
４．顧問

第６条　会員は会誌の配布を受け、また学会総会および会誌に研究成果を発表できる。

第７条　正会員ならびに学生会員は本会の目的に賛同し、別に定める年会費を納める個人とする。入会を希望するものは所定の申込用紙に必要事項を記載し、年会費を添えて、事務局に申し込まなければならない。

第８条　賛助会員は本会の目的に協賛し、本会の事業を援助するため、所定の賛助会費を納入する団体および個人とする。

第９条　顧問は血管性病変と認知症との関連の発展に特に功績のあった者で、理事の推薦に基づき、理事会で審議し決定する。顧問は年会費の納入を免除される。

第10条　会員は次の場合には会員および役員の資格を喪失する。

１．退会の届を出したとき
２．3年間会費を滞納し、かつ催促に応じないとき
３．その他本会則に違反し、あるいは本会の名誉および信用を甚しく傷つけ、評議員会で除名の決議がなされたとき

第11条　正会員および学生会員は、別途定める事由に該当したとき、届出に基づいて理事長が休会を認めることができる。

**【第四章　役員および評議員】**

第12条　本会には次の役員をおく。

理事　26名
監事　２名

第13条　本会には評議員をおく。

第14条　監事および本項に定めた以外の理事は別に定める規定に従い選出される。評議員は別に定める規定に従い選出される。会長は理事会の推薦に基づき選出される。各委員長は理事長が指名し、理事会の承認を受ける。理事長、会長、学会化推進委員長、財務委員長、編集委員長は理事となる。

第15条　理事長は本会を代表し、会務を掌握し、評議員会を招集する。理事長および理事は理事会を組織し、会務を執行する。理事長は収支予算および決算、役員人事など主な会務について評議員会および総会もしくはその他の方法により会員に報告しなければならない。

第16条　本会に学会化推進委員会、財務委員会、編集委員会を設置する。理事長は必要に応じ、理事会の承認を得てほかに委員会を設けることができる。第14条で定める場合を除き、それぞれの委員会の委員長は、原則として理事の中から理事長が指名し、理事会の承認を受ける。委員は理事会の承認を得て、理事長が委嘱する。委員の任期は４年とし再選は妨げない。

第17条　監事は会計を監査する。また本会の運営に関して理事会に出席して意見を述べることができる。但し、他の役員および委員を兼ねることはできない。

第18条　役員および評議員の任期は会計年度を単位とし、理事長、事務局長、理事、監事および評議員の任期は２年とする。理事長および監事の連続三選は認められない。

第19条　その他の役員に欠員が生じた場合には理事会が必要に応じて役員を補充することができる。但し、それらの任期は前任者の残任期間とする。

第20条　評議員は評議員会を組織し、学会の運営に必要な諸事項を審議する。

第21条　会長はその年度の本会を代表し、年度学会総会を含め本会事業の責任者としての任務を遂行する。

１．会長は理事会において推薦し、決定する。
２．会長の任期を１年とし、前回学会総会の終了翌日から学会総会終了の日までとする。

**【第五章　会　　議】**

第22条　学会総会、評議員会および総会は、毎年１回開催される。

第23条　理事長は総数の１／３以上の評議員の要請があるときは臨時評議員会を開催しなければならない。

第24条　理事会は必要に応じて、理事長が招集する。理事会は理事総数の３分の２以上の出席をもって成立し、出席理事の過半数の賛否をもって議決する。賛否同数の場合は理事長が議事を決する。理事会にはその他理事長の指名したものが出席できる。

**【第六章　会　　計】**

第25条　本会の会計年度は４月１日に始まり、３月３１日に終わる。

第26条　本会の経費は、本会年会費、賛助会費、各種補助金および寄付金をもって充てる。

第27条　本会の経費は一般会計、基金会計によって処理する。

第28条　一般会計は基金会計以外のすべての本会の収支を記載するものとする。

第29条　基金会計は、本会の安定的財政基盤を確保するための基金に係る収支のほか、特別の目的のために設定された各種基金の収支について記載する。

第30条　各種基金の設定、繰り入れおよび使用については、理事長の承認を得なければならない。

**【付　　則】**

１．本会の会則を改定するには、理事会の承認を得なければならない。
２．役員報酬は支給されない。
３．本会則は理事会で承認された翌日より、施行される。

平成26年10月１日制定
平成27年９月18日改定
平成28年８月６日改定

# 編集後記

弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座　**東海林　幹夫**

Vas-Cog Journal No.3 をお届けします。No.3 では 2016 年 8 月 6 日に堀内正嗣先生、山田正仁先生の共同主催のもと、金沢都ホテルで開催されました第 7 回学術大会の概要を掲載しました。英国から Nicoll 教授をお招きし、2 シンポジウム、2 教育講演とともに 37 ポスター発表が行われ、レベルの高い演題と活発な議論が印象的でした。これまで最多の 160 名の参加者のなかには若手の研究者も多く、この分野の順調な発展を感じました。今回からは学会事務局のサポートも充実し、新たに 6 名の理事と 6 名の評議員が御参加され、学会基盤の拡充もなされました。本年 6 月に Brisbane で開催された Vas-Cog Asia 5 や 10 月 13 ～ 14 日の Vas-cog World 2016 との連携も進展しており、この分野の世界的な動向も注目です。Journal No4 からは海外からの投稿原稿掲載も企画しており、本学会と Journal がこの分野の世界的な発展に貢献できることを願っています。

## これまでの開催と今後の予定

第 1 回研究会　（2010 年 8 月、東京）会長：長田　乾、福井俊哉
第 2 回研究会　（2011 年 8 月、東京）会長：阿部康二、光山勝慶
第 3 回研究会　（2012 年 8 月、東京）会長：森下竜一、寺山靖夫、阿部康二
第 4 回研究会　（2013 年 8 月、東京）会長：東海林幹夫、羽生春夫
第 5 回研究会　（2014 年 8 月、京都）会長：冨本秀和、水野敏樹
第 6 回学　会　（2015 年 9 月、東京）会長：川畑信也、山口修平（Vas-Cog World と Joint）
第 7 回学術大会（2016 年 8 月、金沢）会長：堀内正嗣、山田正仁
第 8 回学会総会（2017 年 8 月 5 日、東京）会長：内山真一郎、小室一成
第 9 回学会総会（2018 年 8 月 4 日、別府）会長：浦上克哉、松原悦朗
第 10 回学会総会（2019 年 8 月 3 日、東京）会長：秋下雅弘、池田佳生
第 11 回学会総会（2020 年予定）　会長：瀧澤俊也先生、佐田政隆先生
第 12 回学会総会（2021 年予定）　会長：北川一夫先生、神﨑恒一先生
第 13 回学会総会（2022 年予定）　会長：鈴木正彦先生

－これ以降は未定－